

言葉のアートにチャレンジ

詠んでみよう！わたしの短歌・俳句 講座レポート

6月25日、7月1日に短歌・俳句講座を実施しました。それぞれの作り方や考え方を学んだことで日々の生活に彩りが添えられると感じました。そこでもっと多くの方に短歌・俳句の魅力を知っていただきたいと思い、講師の方にインタビューを行いました。ぜひご一読いただき、短歌・俳句をつくる際に参考にしてみてくださいはいかがでしょうか。

講座で聞いた！

いい短歌・いい俳句のポイント！

●みたときに情景が思い浮かぶこと。

(短歌の場合)

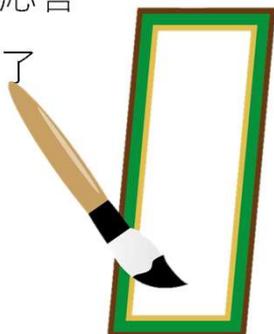
●心地いいリズム、一度聞いたら忘れられない。

<講座当日のスケジュール>

10時開始

- ・それぞれ作り方のルールを学ぶ
- ・実際に詠んでみる
- ・講師からの講評
- ・質疑応答

12時終了



講師

田中 和美

「心の花」・「鱧と水仙」同人。
「大阪歌人クラブ」理事。
朝日カルチャーセンターくずは校で短歌講師。
伊丹ミュージアム親子くずし字教室講師。

平石 和美

俳句結社「銀化」入会、俳人協会会員。
俳句甲子園審査員。
句集「桜炭」「蜜豆」エッセイ集「曇ひかりて」上梓。フェイスブック「和美の目」において俳句鑑賞を日々更新。

<田中先生からメッセージ>



とにかく詠みたいものをたくさん詠んで、詠みきってみてください。なんだか気になることや胸の奥にある思いを、57577に整えてみてください。あとは、誰かとつながってみてください。自分の作品を詠んでそれで終わりではなく、誰かに読んでもらってください。短歌は道具がなくても、体力がなくてもやれる世界です。「締切のある環境」をわざと作って、始めてみる、始めたら10年、やってみてください。そしてリアルな歌会はもちろん、新聞や短歌雑誌、SNSでも短歌を投稿する場所がありますので、自分の言葉で表現することをやり続けてほしいです。

<田中先生にインタビュー>

A:万葉集の「君が行く道の長手を繰り畳ね焼き滅ぼさむ天の火もがも」です。

A:何か詠みたいな、と思ったことを31音に整えていく、その過程が面白いです。短歌は31音しかないのに、その枠の中で無限の表現をすることができます。

Q:面白い短歌、いい短歌とはどういうものでしょうか？

A:覚えられる短歌、覚えておきたい短歌というのはいいものです。心地いいリズムで一度聞いたら忘れられない短歌は、いい短歌です。

Q:いい短歌を詠むにはどういうことを学ばいいのでしょうか？

A:自分は何が好きなのか、何に興味があるのか、何が得意なのか、日ごろの視点に気づくことが大事です。そして、自分がどういった歌を詠みたいのかを探すためには、人の作った歌を謙虚な姿勢で読むことが大事です。

Q:先生が短歌を作るとき、どういうことを気にかけていますか？

A:「短歌的発見」を言葉にできる自分でありたいと気にかけています。日常でのちょっとした発見を言葉にできたらと心がけています。

Q:短歌を鑑賞するときはどういう風に鑑賞すればいいのでしょうか？

A:歌を作った人が詠みたいことは何か、31音に落とし込むのにどういう工夫をされているか、詠んだ方の思索の軌跡をたどるように鑑賞するといいです。

Q:ステップアップのために参考になりそうな書籍やサイト等、教えてください。

A:NHKの講座や栗木京子さんの「短歌を楽しむ」といった書籍はジュニア向けですが、初心者の方にも分かりやすい内容です。

<平石先生からメッセージ>

とりあえずなんでも一句作ってみて、句会に出てみてください。そこで仲間と出会い、俳句を始めてみてください。俳句は「苦しみ」でもあるけれど、とても楽しいものです。季語を大事にする句もあれば、無季の素晴らしい句もあり、「違うことを認めていく」というのが俳句だと思っています。「自分」を蓄積していくことが大事です。



<平石先生にインタビュー>

A:芭蕉の句は全部好きです。中でも「行く春や 鳥啼き魚の目は泪」が一番好きです。

A:見たことがあると思うような風景に出会うことが俳句の面白いところです。例えば、与謝蕪村の詠んだ「さみだれや大河を前に家二軒」という句がありますが、私が最上川へ行ったとき蕪村の句はここで詠まれたのではないかと思いました。

Q:面白い俳句、いい俳句とはどういうものでしょうか？

A:いい句は、季語に語らせるものです。理屈では割り切れない句が面白いです。

Q:いい俳句を詠むにはどういうことを学ばいいのでしょうか？

A:私はまず季語を知ることが大事です。次に、先人のいい句を読むこと。最後に句会に出ることです。誰かと率直に意見を交わしてみてください。

Q:先生が俳句を作るとき、どういうことを気にかけていますか？

A:じっと見つめることを大事にしています。1つの題に対して、50句作ったりするようにして、その中からいい句を自選することで見る目を高めています。

Q:俳句を鑑賞するときはどういう風に鑑賞すればいいのでしょうか？

A:作者が何を詠みたいと思ったのかをわかってあげようとするのが大事です。そのためには、優しい目で見ることが心掛けています。

Q:ステップアップのために参考になりそうな書籍やサイト等、教えてください。

A:HPサイトは「増殖する俳句歳時記」という鑑賞サイトです。書籍では飯田龍太さんの鑑賞本やエッセイなどが読みやすく参考になります。

枚方市市民総合文化祭2023

短歌

俳句部門

募集期間： 6月1日(木)～7月15日(土)17時

短歌・俳句

■ 募集内容

枚方市内在住・在職・在学の人、またはメンバーの半数以上が市内在住・在職・在学の人で構成される団体。

※公序良俗に反する発表内容は、お断りいたします。

※天災地変や新たな感染症など、不可抗力により公演が中止となる場合がございます。

※各部門詳細は枚方市総合文化芸術センターHP(<https://hirakata-arts.jp>)、

または募集要項をご覧ください。

■ 申込方法

申込書に必要事項をご記入の上、募集期間内に郵送、持参、メール、FAXでお申込みください。

募集要項・申込書を設置している場所

枚方市総合文化芸術センター 本館・別館・ホームページ

枚方市役所 別館3階 文化生涯学習課・ホームページ、各生涯学習市民センター

■ 会期日程 **2023年8月26日(土)～9月3日(日)**

■ 会場 **枚方市総合文化芸術センター 本館**

●短歌・俳句部門

短歌	自由詠2首まで。選者は田中和美さん。
俳句	テーマは「水」、または兼題の部「月」、季節は自由。各1句まで。選者は平石和美さん。

皆さまのご参加を、お待ちしております！